

一 関 楽 走 会

2007 年
11 月 号
No.400
発行所
浅沼 善治
Tel24 3250
09048827059

400 号
特集号



一 関 楽 走 会 報
四〇〇号記念

一 関 市 長 浅 井 東 兵 衛

一 関 楽 走 会 報 四〇〇号の発行、誠におめでとう
ございます。

貴会は、岩手国体後の昭和四六年に結成されて以
来、会員の健康づくりと会員相互の親睦を図るこ
とを目的として、一関国際ハーフマラソン大会をは
じめ、数多くのマラソン大会で活躍されており、ま
た、この間、昭和五九年岩手日日体育文化賞を受
賞されるなど、その活躍に心から敬意を表する
次第であります。

恒例となりました一関文化センターから中尊寺ま
での元旦マラソンは、正月の風物詩のひとつとなっ
ているところであります。

さて、貴会報は、昭和四九年一月の第一号の発
行以来、実に三三年間という長きにわたり発行さ
れてこられたわけですが、歩くこと走ること
は、全てのスポーツに通じる基本であり、健康づく
りの大きな要素であり、その情報を発信する会報
は、会員の健康づくりの一助として、今後その役
割を担い、発行されますことをご期待申し上げま
す。

市といたしましては、「いつでもどこでも」いつまで
も「を」を入口ガンに、地域に根ざした生涯スポーツの
推進と健康づくりに努めておるところでございます
ので、皆様方の一層のご支援ご協力をお願い申し上
げる次第であります。

結びに貴会ますますの発展と皆様方のご健走を
ご祈念申し上げます。



会報四〇〇号
発行を祝って

一 関 市 陸 上 競 技 協 会
会 長 舟 山 正 三

一 関 楽 走 会 の 会 報 四〇〇号発行
おめでとございます。

昭和四六年五月に会が発足して
以来、三十数年にわたり毎月発行
し四〇〇号を迎えられたことは、
大へんな偉業で衷心よりお慶び申
上げます。

走る仲間達が健康づくり、生き
がづくり、そして仲間づくりのも
と一関楽走会を立ち上げ、その願
いをより確かなものにする力を会
報発行に託してから四〇〇号を数
えるに至ったことは、会の歴史的な
歩みの証でもあり快挙でもありま
す。よく「継続は力なり」と言われ
ます。会員の力強い走りと共に、楽
走会の元旦マラソンや月例走会、走
る仲間との交流会など優れた活動
に象徴される四〇〇号でもあると
思います。

会員の皆様が、国内の諸大会は
もとより海外のマラソン大会にも参
加し様々な活躍をしておられるこ
とに敬意を表し、一関楽走会の今
後益々の発展と会員各位のご健
康、ご活躍を祈念いたし、一関楽走
会会報四〇〇号発行を心からお祝
いいたします。



一 関 楽 走 会
会報四〇〇号
を記念して

一 関 楽 走 会
会 長 氷 室 一 彦

平成一九年一月号で一関楽走会
の会報は「四〇〇号」を迎えました。

昭和四六年五月発足以来、三十数年
間毎月欠かさず発行されてきまし
た。初代会長亀谷一男さんのガリ版
印刷による発行から、現在の浅沼善
治事務局長のワープロ印刷にいたる
まで欠かさず発行されています。
平成一九年の涼秋の候を迎え四〇〇
号が実現したのです。

会報を通じて一関楽走会は、行事
やマラソン大会出場記などを知らせ、
会員の親睦に努めています。
また、元旦マラソンや市内一周駅伝
などを通じて市民とともに歩んでお
ります。これらを通じて我々は一関
市民の健康に一役買っているのではな
いかと思っております。

今では楽走会の高齢者となった及
川夫妻、高階さん、持館さんなどが、
マラソン大会のたび、高齢者の現役健
康マラソンの代表として紹介されてい
ます。

これからも自分の健康と相談しな
がら、「亀さん」でよいです。「楽しく
走ってまいりましょう。」「継続は力な
り」です。

一 関 楽 走 会 会 報 四〇〇号を記念して

一 関 楽 走 会
元 会 長 関 野 吉 美

昭和四七年五月五日中里
一 民 区 遊 園 地 に 於 いて 亀 谷
一 男 氏、高 橋 正 人 氏、鈴 木
直 八 氏 の 三 氏 に よ り 一 関 楽
走 会 を 結 成 発 足 し ま し た。
同 時 に 会 員 及 び 一 般 市 民 を
対 象 と し た 広 報 誌 「 楽 走 会 」
便 り を 発 行、爾 来 今日 まで
休 み な く 月 一 回 発 行 の 努 力
を 積 み 上 げ、こ の た び 一 一
月 に 四〇〇号 と な り ま す。

誠に慶びにたえません。
会長はじめ編集にあたる事
務局長さんに心から感謝の
意を表します。

岩手県内の走友会で最古
の歴史を誇る我が一関楽走
会はこれからも会員の親睦
を深めながら、互いの健康
増進を図りましょう。

当市も室根、川崎、大東、
千厩、東山、花泉の七市町
村の合併を果たし、文字通
り県南の産業経済の中心都
市として限り無い発展の希
望が出て参りました。
共に手を携えてスポーツ
を振興しましょう。

健やかに老いる

山本 武治

この度、一関楽走会の会報 400 号を発行するに至ったことは会の活動の伏目として、誠に喜ばしいことであります。心からお祝いを申し上げます。

私が楽走会に入ったのは昭和 59 年頃と思います。入会以来、今日まで 20 年余り会員の方々には大変お世話になりました。勤めの関係で皆様のご期待に応えられなく大変申し訳なく思っています。

顧みますと、市民マラソン、一関国際ハーフマラソン、前沢マラソン、新市内駅伝大会等で汗を流したのが良い思い出になっています。私の走る目的は完走するのが第一です。今年 5 月で満 72 歳になりました。私の過ごしてきた年月のあれこれと思うとき、これといった大病もせず、家族皆元気で暮らしていることに深く感謝しています。

これも楽走会の会員の皆様方の日頃の暖かいご支援とご協力の賜物と思っています。これからは体力的にこれまでのように走れないので足腰が衰えないよう適度な運動をする予定です。今後共宜しくお願いいたします。

一関楽走会会報 400 号記念して

加藤 照男

昭和 49 年 11 月第 1 号発行してから、平成 19 年 11 月、34 年目で 400 号。会長、幹事、事務局の方々は並々ならぬご苦労があったと思います。頭が下がります。

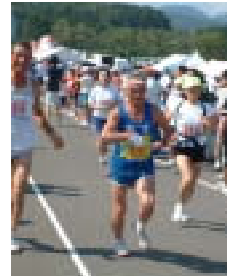
私は昭和 51 年から走り始め、昭和 53 年 4 月頃、楽走会に入会しました。会社でも楽走同好会をたちあげ、市役所の同好会とも競争したものでした。走る楽しさがあり、記録も伸び、三交代なんのそのと思い、夜昼と頑張ったものでした。今考えると少々ムボウな所もありました。今までは?でもそうしたタンレンがあったからこそ今の自分があると思います。又長くつづける事が出来たものと思います。今年 60 歳になり(入会 29 年目) マラソンばかりでもなくジョキング、ウォーキングと巾を広げて活動したいと思います。足、コシが動くうちは(基本は走歩)という事です。会報 400 号おめでとございます。

ヤレバ デキル

及川 繁

総てのスポーツの基本がまず駆足からと、名誉会長に悟らされて入会、多くの走友に世話になりつつ頂いた「ゆっくり走ろう」の T シャツを着用し、月 300 キロを目標にジョキングを続けていますが、米寿を目の前にし懐疑きの多い日々なれど、会の金野隆次さんや北海道の後藤武夫さんは、とうに 80 歳過ぎ去っても元気に走り続けている姿を拝見「ヤレバ。デキル」を思っています。

病を忘れず健康に欠けたものは「万事に欠ける」と言われぬ様努めたいです。



最強の良きライバル ~ 会報 400 号記念号に寄せて ~

菅原 孝一

石巻の Y 君は、ここ 4 ~ 5 年俺の最大のライバルだ。今年に入っても 10 数レース、抜きつ抜かれつのデットヒートを演じている。T 君は先行逃げきりタイプ。俺は中盤から後半にかけて追い上げかわすスタイル。だから 10 キロ ~ ハーフなどのレースだと、俺の負ける割合がかなり高い。しかし、30 キロ ~ フルなどでは俺の勝率の方がだんぜん高い。最近でも名取クロカン 10 キロや一関ハーフでは負け続けている。田沢湖フルでは楽勝したものの、一関ハーフでは、毎回 1 ~ 2 分ほどの差をつけられなして、大変悔しい思いをさせられていた。しかし、先日の江刺ハーフはかなり気合の入ったレースを繰り広げた。いつも通り T 君はスタートから俺の前に出てハイペースで走りだした。10 メートルぐらい後を懸命に追う俺。5 キロポイント 19 分 30 秒。これは早く入り過ぎていて、後半かなり苦労しそうなハイペース。ライバルを追う事をやめて自重しようかとも思ったが、今日は疲労も抜けているし、江刺は入賞のチャンスも大きい大会。リスクを承知でやるだけやってみる事にして、気合を入れた 6 キロ付近からの坂道で T 君と並び、坂を利用してペースを上げ差を広げる。しかし、奴も簡単には引き下らない。2 キロほど先の坂で俺を抜き返しながらかついて来い。」とぬかし挑発する。奴も今日は調子がいいのか?俺はもういっぱいだが、ここで諦めたら上位入賞どころかライバルとして情けない。折り返し近くになると、盛岡の M さんや東山の O 君など俺たちよりレベルの高いランナーがまわりにいっぱいいる。ランナーズハイなどと悠長な事を言っている場合ではないが、なんか今日は気合も入っているし、かなりキツイが集中できて楽しい。

中間地点 42 分 46 秒。ここからは下りペースで前半飛ばした疲労はあるが、なんとかかなりそうだ。大船渡の A さん、盛岡の M さん、東山の O 君などは、普段は遙か前方を走っているランナー。今日は T 君のハイペースと挑発的な刺激もあり、いつもの位置より 1 キロほど前方のハイレベルなポジションを走っている。A さん、M さん、O 君、T 君、俺、と一本のラインの様に一つになりハイペースで飛ばす。TV で見るトップランナーの走りのようなイメージが頭に浮かぶ。「もしかして俺ってかっこいい?」一人で悦に入り 4 人を必死で追う。

A さん、M さんは 55 ~ 59 の同年代 13 キロ付近。M さんは、A さんを振り切りペースを上げ離れていく。ゴール後話を聞くと、M さんは A さんとライバル関係のようで気合が入っていた様だ。O 君も上位ランナー、後半更にペースを上げ前方に小さくなっていく。A さんは後半バテたと言って後方に下がり、T 君と俺の勝負はまだつかない。

15 キロ地点 1 時間 1 分 46 秒。年代で上位を狙うためには絶対に T 君に負けるわけにはいかない。18 キロ過ぎ、T 君を無給水でかわし必死に逃げ切りをかける。残り 2 キロ弱、沿道の応援の人たちの声で後方の T 君との距離を測る。息を荒げながらラストスパート。蔵の街並みの中を、T 君が離れている気配を感じながらゴール。1 時間 26 分 31 秒。ハーフベストタイムでレースは終わった。

ゴール地点で話が弾む。T 君も 5 キロ地点のタイムが早過ぎたと思ったが、入賞を考えて自重することは頭になかったようだ。

今後、2 人の勝負のかかるレースは北上フル。気合の入ったレースを演じて、好タイムを出したいと思う。

一関楽走会 400 号を迎えて 第 52 回東稲登山マラソン大会について

佐藤 繁雄

今までも数多くマラソンに出ていましたが、あれほど寒い時は無かった、特に雨風で帽子が飛ばされそうで、まるで台風のようでした。登り坂はすごく水が流れて足が冷たかった。

石川、菅原の 2 人の弟達の姿は遠くなって見えなかった。完走後は浅沼さん佐藤文政さんと、今日の結果を語り合いながらバスでスタート地点に帰りました。それから弟たちと車で舞鶴の湯に行き、風呂を浴び疲れを取りビールで乾杯完走を讃えあいました。

「一関国際ハーフマラソン大会」平沢の場合

平沢 和則

思い起こせば 20 年前、30 歳の私は「スタートでトップ集団にいれば来年のポスターに載るよ！」のアドバイスを固く信じ全力疾走、その後も若さに任せてオーバーペースで走ってしまい、ゴール直前は意識もうろうのアンデルセン状態だったそうです。気がついた時は救護ベットで救護の方々に大変お世話になってしまいました。その後、39 歳迄 10 回ハーフを完走しましたが、参加するたびに救護担当の保健婦さん達にからかわれていました。40 歳から数年ブランクが有り体重も 85 kg に達してしまっただけに、佐藤東さんのひたむきに走る姿に感銘して 10 km の部に復帰しました。昨年は、東さんと「体重別エントリーがあれば 80 kg 超クラスで上位入賞を目指す。」などと冗談を言っていたのですが、日頃の練習不足と体重オーバーがたたって東さんに大きく離されて、日頃走り込んでいる人にはかなわないことを痛感しました。少し反省した今年は、練習量を私なりに増やして晩酌の回数を減らし減量しました。結果、体重は 10 kg 減で 10 km タイムは 5 分減。おまけに高かった血圧も正常値になり、前沢マラソンのハーフにもエントリーしてしまいました。

走ることの楽しさを再認識させてくれた「一関楽走会の仲間」に感謝しつつ今後とも健康に走り続けたいと思っています。

健康貯金を始めよう……

葛西 五郎

月 1 回発行している会報が 400 号ということは、単純に 33 年 4 ヶ月と言うことになりますね。編集している事務局さん、大変ご苦勞様です。

会報には、各地域の大会に参加し、タイムを伸ばそうと頑張った感想から「イキズカイ」が伝わってくる内容のものや、走行距離の累積による表彰の様子など、集まりに参加しなくても、活動の様子が伝わり、私の活力になります。

会員皆さんの、ジョキングを始めた動機はそれぞれ違うと思いますが、ジョキングで汗を流した後の、爽快感は共有できるものともいえます。私はジョキングを始めて約 24 年になりますが、年齢とともに健康という財産を蓄えているような気持ちから、喜びを感じる時もあります。そもそも、私が、ジョキングを始めたのは、20 歳代後半に発症した喘息がきっかけです。季節の変わり目に突然襲ってくる呼吸難、あるときは、夜中に病院に駆けこむが、吸入器を吸う力がなく、命の危険を感じたこともありました。そんなとき、堤防（トリムコース）を散歩していると、額に大粒の汗を流し、楽しそうに会話を交わしながらジョキングしている仲間の姿に励まされ、俺も喘息に負けないで、体力をつけようと発奮させられたのです。今では、ほほをなでる朝の風が心地よく、毎日のジョキングは私にとって健康維持と心身の再生の時間でもあります。会長の言葉を借りると「ゆっくり、楽しく、どこでも、金がかからず」のスポーツがジョキングと述べております。私も無理せず積み重ね、健康維持のジョキングを継続し、頭すっきりと、毎日を 過ごし、健康という貯金をしてゆきたいと思います。

会報 400 号記念おめでとう

高階 和夫

亀谷名誉会長の略歴によると昭和 46 年 5 月一関楽走会を結成され今年で 36 年目に当たり、350 号まで自筆で書き発行され、350 号より今日 400 号まで浅沼事務局長が担当し、B4 両面発行と大変なこと、ご苦勞様です。

さて、私は当楽走会に昭和 59 年 9 月入会して会報 62 号より 400 号まで 338 ヶ月の会報を頂きましたこと感謝しております。

昭和 55 年 5 月の 70 号会報によると、当年行事のフルマラソン 4 月 6 日に初完走し、その時花泉ランナーより 3 名と、その当時県下でも有名な大船渡新沼三徳さんも初完走のことが書かれており古い会報も楽しみです。また私は昭和 59 年 1 万キロ、平成 12 年 3 万キロ、平成 16 年 5 万キロ完走して、今年東京荒川フルマラソンで 10 万キロ達成、走り始めて 28 年の月日も経ち、年齢も増し足の動きも限界で、どこの大会もラスト完走のような走りで、今年名取で始まり前沢マラソンで納め 10 ヶ所の大会を完走しました。

最後に当楽走会の発展と会報を続けて下さるようお願いいたします。

会報 400 号おめでとうございます

佐藤 磨

私が入会したのは 36 歳か 37 歳の頃だったと思います。早いもので入会してから 23、4 年経ちました、会報 400 号というと月一回発行なので 33 年以上の間毎月発行ですね、すごいものです、担当してこられた各役員の皆様本当にご苦勞様です。

振り返るといろんな事が思い起こされます。私は今でも初マラソン大会のことがハッキリと脳裏に思い出されます。一関ハーフマラソン大会に参加し、1 時間 47 分台でした。そして翌年は 1 時間 30 分ジャスト、3 年目が 1 時間 28 分台でした。又初マラソンの年に前沢マラソン 10 キロに参加し 39 分 15 秒で走りました。参加するたびにタイムがアップするのが楽しく 1 日 20 キロ以上練習したことが昨日のように思い出されます。最近では体調が思わしくないため、ウォーク中心に月 100 キロ程走ったり歩いたりする毎日です。

今後ますますの発展を期待し、皆で頑張りましょう。

「会報 400 号記念特集」に寄せて

及川 美知子

一関楽走会の会報は、昭和 49 年 11 月第 1 号より毎月発行され、会の活動、大会参加の記録、感想など今年で 34 年月という快挙に、本当に心からの敬意を表します。(会長はじめ担当の方に)

私は途中から入会ですが、当時の会報は、亀谷会長さんのあたたかい手書きのもの、それからだんだん時代も変り、今ではパソコンとなり、紙面も内容も多彩豊富となり、会報を読むのが楽しみとなりました。自分が参加しなくとも、みなさんの参加記録、記事などに頑張ってもらえるんだなあ嬉しくなります。

また山行きの記事を見ながら、30代～40代の頃の3,000メートル級の山行きを思い出し、汗と登頂の達成感に途中の辛さが吹っ飛んだことなど感慨深いものを感じます。今はせいぜい磐梯山位ですが、とてもいい刺激を受けまた登ってみたい心境です。

走りはじめは、山、スキーに足腰を鍛えとの思いからですが、加齢とともに気力、体力ともに減退し、現在は健康維持が最大目標、時折の大会出場は、自己の記録へのささやかな挑戦と思い、完走を目指していつまで走れるか、私の「未知」とのところ。走友のみなさんのあたたかい交流が私の支えです。



一関国際ハーフマラソン大会に思うこと

長澤 茂

第 26 回一関国際ハーフマラソン大会は成功裏に終了したようです。大きな事故もなく、天候にも恵まれました。ご同慶の至りです。山梨大学モグス選手の爆走は見事。ハーフで 1 時間を切る新記録のおまけつきでした。そのスピードに驚嘆し、学生を中心とする 2 位集団との遙かな距離に其の強さを再認識いたしました。参加選手にも良い土産が出来たと思います。運営面でも従来の競技年齢層に幅を持たせた結果、参加者が増えたと聞き及びました。改めて大会関係各位に感謝申し上げます。しかし一方では、大会前夜の歴史あるレセプションが財政逼迫から夕食会に規模縮小となった事、残念でなりません。

市民ランナーは様々な目的を持って参加します。健康志向・記録・参加賞・賞品・土地の暖かさ・コースの走り易さそして沿道の声援などなど。これらが、一関の町おこしの一助になれば一挙両得です。各地での大会でも地域の特徴をにらんで運営に腐心していることでしょう。盛夏に行われる大会や急勾配の心臓破りの大会もあります。参加者の、過酷な条件に挑戦する気持ちを狙ったものでしょう。海外の首都を含め東京・京都など大都会でのレースもあり、鈍足ランナーが日本の中心街や古都を走る醍醐味はまさに其の極みでしょう。本大会にも今日まで紆余曲折が有りました。参加者の一人として残念に思うのはハーフマラソンのコースが大幅に変えられた事です。華やかな応援とはかけ離れたコースになりました。寂しい限りです。そこで提案ですが、参加者全員を大きくアピールする大会に変貌しメインストリートを走らせましょう。胸のゼッケンに出身県や、県内の市町村名を書きます。名前でもニックネームあるいは所属でも結構。サクラも含めた大勢の沿道の声援を受けて走ります。“仙台頑張れ！”とか“奥州！”とか“先生、倒れるな！”とか。今回は親切な床屋さんさんに“止まって、写真とっから！ありゃ、失敗した。もう一回！”と言われ、記録なんか頭からすっ飛んでしまいました。うれしかった。大会前日は、市内どの商店も大安売り。前夜祭は食べきれないほどの御馳走。結果、参加者が増えレセプションも盛り上がりお土産も売れる。賞品はゼッケンの飛び賞で前日発表。“来年も是非来たい！”と。

一関市が近隣町村と大合併した結果、東山・大東など伝統ある市民マラソン大会は一関大会に集約された感があります。財政は逼迫、交通規制も厳しくコースは人里はなれた裏街道を市民ランナーがただ黙々と走る大会は枚挙に暇が無いほどです。いかにモグス君が新記録を発てようと皆の記憶に長くは留まらないでしょう。“一関国際ハーフマラソンには是非出たい！”と、記憶に残る大会の在り方について皆で知恵を出し合ってみてみたいと思います。

楽走会会報

田道 イク子

第 1 号が発行されて以来 400 号を迎える楽走会の会報おめでとうございます。

会員一同の熱き心で取り組んで参りましたね。

改めて、会の素晴らしさ、そして理解ある支援と協力の賜物だと思います。

大会参加の記録、感想など、活動の様子など載せて、私達を楽しませてくれます会報、瞳をとじれば、心に残る数々の思い出数えきれない感激・感動、忘れる事はありません。

いまはジョキング、ウォークと毎日楽しんでおります。

TV 局主催が私を待って居ります。いまはとてもいい時代となりましたね。

健康であればいろんな催に参加できます。

これからも会を一層充実発展させて下さる様頑張ってください。

皆さんの健康と、会の益々の健闘をお祈りいたします。



会報のおもいで

佐藤 文政

会報 400 号おめでとうございます。

私が会報を見たのは昭和 60 年春でした。それは始めてフルマラソンを走って会報に載ったことでした。私はそれまであまり長く走ったことがありませんでした。仲間の石川徳雄さんから誘いもあり参加して走ることにしました。8 時のスタートには 5 人くらいでした。(早い時間にスタートした人達もいました。) 私は胸がドキドキしながらスタートしたものでした。皆んなから「始めはゆっくり走らんぞ」と言われながらの走りでした。帰りの山谷小学校あたりから辛くなり歩くようになっていたところ会員の高松国政さんから「バナナを食うと元気が出るぞ」と言って私にバナナを呉れていきました。私はすぐそのバナナを食べてみると元気になりそれからはいくらでも走ってゴールできました。

お蔭様で亀谷会長よりフル初完走のトロフィーを貰い、始めて会報に載せてもらいましたのが今でも会報を見るたびに思い出してあの走っている時の苦しみなどは楽しみに変わり忘れることはありません。

最後になりましたが 400 号を迎えるにあたり事務局の方々には大変なご苦労があったと思います。心からお礼申し上げます。

祝 400 号！ 新たな誇り支える事務局

伊東 楯夫

会運営の両輪とも言える会報が、遂に 400 号を達成。

誠に目出度く、会の財産に更なる厚みを加える快挙となりました。この偉大なる功績は又、会員相互の連帯と強調の成果であるとの認識を新たにします。同時に、この華やかにして晴れがましさの招来を支えたものは、何と言っても事務局の果てしない献身の賜物であります。

一号の会員到着迄の経緯を要約すると、企画、自筆、写真撮りを含む原稿、資料の依頼、回収、紙面割付、ワープロ入力、校正、印刷、送付(郵送含む)迄、膨大な手間とヒマの呻吟と閃きを追及する孤独な作業に、カメラ、パソコン、車のモノの提供と正に物心両面、八面六臂の活躍と奮闘の産物である事を知らねばなりません。

この難行・苦行の 30 数年を経ての見事な 400 号の誕生であります。願わくは、この一連の作業に従事された歴代事務局氏におかれては人生の掛け替えのない糧とされます事を。節目に際し感謝の念を一層強固にしてやみません。

一関楽走会会報 400 号特集号発行までの主な内容

第 1 号	昭和 49 年 11 月	初代会長亀谷一男氏により「楽走会報第一号」発行	1. 会の名称	2. 会の趣旨	
			3. 楽走の意味	4. 会員の資格	5. 会費なし
第 100 号	昭和 57 年 11 月	「晩秋暮秋季秋の節早朝のマラソンは、かなりの寒さが身にしむ」			
第 200 号	平成 3 年 3 月	2 代目会長に関野吉美氏選任 新役員紹介			
第 300 号	平成 11 年 7 月	会長 氷室一彦 第 19 回走る仲間の会県交流会花巻大会開催要項			
第 318 号	平成 13 年 1 月	B4 両面ワープロ印刷による会報発行			
第 325 号	同 8 月	第 21 回走る仲間の会県交流会一関大会開催			7 月 1 日
第 329 号	同 12 月	一関楽走会 30 周年記念式典開催		30 周年記念誌発行(14 年 3 月)	11 月 18 日
第 341 号	平成 14 年 12 月	県教育表彰受賞			11 月 5 日
第 350 号	平成 15 年 9 月	会報 350 号を記念して 「一関楽走会」名付けの親 名誉会長亀谷一男氏より			
第 351 号	同 10 月	初のあっぴりレーマラソン大会参加			9 月 14 日
第 353 号	同 12 月	一関市内駅伝競走大会 A 一般男子 B マスターズの両部門で優勝			11 月 9 日
第 357 号	平成 16 年 4 月	いちのせき健康まつりに参加			3 月 14 日
第 359 号	同 6 月	チャレンジ青・東「みちのく岩手路を走る」横浜熟年マラソン同好会と江刺から金成まで走る			5 月 4 ~ 5 日
第 363 号	同 10 月	「スポレクいわて 2005」広報ボランティア参加 一関～水沢間走る			9 月 18 日
第 365 号	同 12 月	フルマラソンコース蘭梅荘から遊水地堤防、平泉折返しに変更			11 月 14 日
第 368 号	平成 17 年 3 月	ホームページ作成講習会開催 「地域づくり団体全国協議会」助成事業		2 月 5 日	12 日
第 371 号	同 6 月	チャレンジ青・東「東京大手町」ゴールを応援			5 月 4 日
第 373 号	同 8 月	「走る仲間の会県交流会釜石大会」に新調ウェア着用で参加			7 月 3 日
第 375 号	同 10 月	新「一関市」合併記念市町村廻り交流ランニング			9 月 10 ~ 11 日
第 387 号	平成 18 年 10 月	いちのせき市民活動 i フェスタで「健康講座」川崎町			9 月 17 日
第 389 号	同 12 月	一関楽走会三十五周年記念誌発行			
第 392 号	平成 19 年 3 月	一関楽走会ホームページ開設(12 月)検証			

楽走会に入るきっかけ

小野寺 富士子

いつからどのようにしてマラソンとして走りはじめたのかははっきりと思いだせませんが、走るきっかけは山でした。北アルプスに行くにあたって同行者に迷惑をかけないように楽しく山行するには体力作りに走るしかないと思いトリムコースでデビュー、初日後先を考えると5周、なんかもっと走れるかも、でしたが次の日仕事に支障をきたす程の下肢の筋肉痛でした。

山から帰ってからも走るのが楽しく、なんとなくトリムコースを走っていました。毎日走っていたわけではなかったが阿部金吾さんに楽走会にと声をかけていただき、楽走会の会員だった故黒澤貞子さんに話すと「会に入り一緒に元旦に平泉まで行こう」で入会、その時点ではまだまだ山が楽しくマラソンはどこで誰がでしたが、平泉迄走るなんてとんでもなく、黒澤さん、千葉康子さん、私と平泉迄歩きでした。次の年も3人で歩きでした。3年目でようやく走ってみようとうう気持ちになり、あの坂を上って中尊寺まで、きつくて歩いたのを思いだされます。徐々に山からマラソンに気持ちが傾き今では山とマラソンの日程が重なるとマラソンが優先になっています。楽走会に入会できたことで色々の大会に参加し楽しく走れることに感謝しています。

10月例走会

10月例走会は10月7日(日)河川敷「トリムコース」で開催しました。

この日は天気もよく、紅葉の走りとあって山に行った会員もあり参加者は少なかった。

参加者

伊東 楯夫 佐藤 磨 高階 和夫
田道 イク子 遊佐 隆 長尾 貞治
菅原 孝一 持館 守也

ふれあい駅伝は第50回一関市内駅伝競走大会と兼ねて実施

* 日時 11月3日(土)午前8時30分

* 場所 一関運動公園援陸上競技場

同陸上競技場を発着点とする周回コースを5人で禪リレーする。

昨年まで一般部門とマスターズ部門でダブル優勝してきました。今年もふれあい駅伝と兼ね2チームで参加します。選手の奮闘、及び応援をよろしくお願いします。

11月の予定

* 例走会

日時 11月4日(日)

午前6時30分

場所 河川敷「トリムコース」
今月から時間を6時30分とします。

* 秋季フルマラソン

日時 11月18日(日)

コース 蘭梅荘～遊水地堤防～
4号線折返し～蘭梅荘

<初完走者に会長よりトロフィーの授与があります。奮って参加を>

第26回一関国際ハーフマラソン大会記録一覧

9月度 月間MVP・走行累計 順位

種目	氏名	タイム	種目入賞
5K 男子	大越 昭夫	19:53	3位
	石川 徳雄	21:38	
	長尾 貞治	27:55	
	遊佐 隆	30:45	
	高階 和夫	39:11	
	金野 隆次	43:11	
	及川 繁	43:11	
10K 男子	佐藤 隆文	45:31	
	斉藤 祐二	45:50	
	平沢 和則	46:26	
	小野寺利美	46:33	
	佐藤 繁雄	48:21	
	佐藤 東	51:26	
	熊谷 正治	54:26	
	氷室 一彦	1:16:16	
持館 守也	1:21:32		
10K 女子	小野寺富士子	54:45	
ハーフ・男子	菅原 孝一	1:29:48	
	葛西 五郎	1:40:03	
	佐藤 文政	1:45:27	
	浅沼 善治	1:46:27	
	伊東 楯夫	1:53:27	
	長澤 茂	1:56:44	

月間順位	名前	9月度	走行累計	累計順位
1	菅原 孝一	426	3863	1
2	関野 吉美	362	3352	2
3	及川 繁	326	2592	3
4	高階 和夫	280	2340	4
5	佐藤 文政	248	1748	7
6	伊東 楯夫	226	1497	9
7	浅沼 善治	204	1778	6
8	藤木洋太郎	190	1976	5
9	田道 郁子	169	1140	12
15	及川美知子	169	1332	10
10	小野寺富士子	158	1565	8
11	遊佐 隆	150	1010	13
12	佐藤 繁雄	140	1321	11
13	氷室 一彦	92	811	15
14	佐藤 磨	70	864	14
16	千葉 利郎		158	17
17	遠藤 正		700	16
18	持館 守也		86	19
19	小野寺 晃		67	20
20	長尾 貞治		120	18

編集後記

ここに一関市長様並びに一関市陸上競技協会会長様のお祝いのお言葉を賜り会報400号の発行が出来ましたこと光栄に存じます。衷心よりお礼申し上げます。 編集委員会